

## イヌの痒みに対する高純度軟化水を用いたシャンプー療法の臨床的効果

大森啓太郎<sup>1)</sup>、田中あかね<sup>1)</sup>、巻田優花<sup>2)</sup>、高井政貴<sup>2)</sup>、吉成佑治<sup>2)</sup>、松田浩珍<sup>1)</sup>  
(農工大・獣医分子病態治療学<sup>1)</sup>、三浦工業株式会社<sup>2)</sup>)

【目的】これまでに我々は、高純度軟化水（UPSW）がヒトおよびマウスのアトピー性皮膚炎臨床症状を改善することを明らかにした。本研究においては、イヌの痒みに対するUPSWを用いたシャンプー療法の臨床的効果を検証した。【方法】外部寄生虫、細菌、真菌感染を除外した痒みを主症状とするイヌ11頭を市販のイヌ用シャンプーを用いて週に1回、1ヶ月間、UPSWまたは水道水でシャンプーした。被験犬を無作為に2つの群に分類し、群1においてはUPSWによるシャンプーを行い、その後一定期間を置いて水道水によるシャンプーを行った。群2においては水道水によるシャンプーを行い、その後一定期間を置いてUPSWによるシャンプーを行った。試験前および試験終了後に、獣医師が皮膚炎の重症度をアトピー性皮膚炎皮膚重症度指数（CADESIスコア）で評価し、飼い主が痒みの程度を痒みスコア（PVASスコア）で評価した。シャンプーの際に使用した水の種類は獣医師には明かされたが、飼い主には明かされなかった。【結果】群1および群2において、一定期間UPSWまたは水道水を用いたシャンプーを行わなかったことによる持ち越し効果は認められなかった。また、群1および群2において、UPSWまたは水道水による試験前の2群間のスコアに有意差は認められなかった。そのため、群1と群2を統合し結果を解析した結果、UPSWによるシャンプー療法により、CADESIおよびPVASスコアは有意に減少したが、水道水によるシャンプー療法では、両スコアの有意な減少は認められなかった。【考察】本研究結果から、痒みを主症状とするイヌに対してUPSWを用いたシャンプー療法が臨床的に有効であることが明らかになった。